さらなる生産性向上を目指して/コンクリート技術交流会が開催

11月2日，日本コンクリート技術㈱は，国際ファッションセンターKFCホール(東京・両国)で「第8回コンクリート技術交流会」を開催，全国各地から約120名を超える参加があった。

冒頭，開会挨拶に立った同社最高技術顧問の長瀧重義氏(東京工業大学名誉教授)は，技術者同士の交流を目的にこれまで開催されてきた本交流会の経緯を紹介され，ここで得た知識や情報をぜひ今後に活かしてほしいと語った。

続いて行われたパネルディスカッションは「コンクリート工事の生産性向上に向けた施工性の改善提案」をテーマとして，コーディネーターに本間淳史氏(東日本高速道路㈱)を迎え，渡辺博志氏(土木研究所)，橋詰幸信氏(大成建設㈱)，岡本　大氏((公財)鉄道技術総合研究所)，中積健一氏(三井住友建設㈱)，河野一徳氏(日本コンクリート技術㈱)らがパネリストとして登壇，それぞれの立場から話題提供を行いi－Constructionなど施工の合理化が叫ばれる昨今，生産性向上に向けてコンクリート工事の施工性改善やプレキャスト製品の活用などについてそれぞれの立場から意見が交わされた。

パネリストからは「既存の概念に捉われず工夫や新技術をいかに円滑に使えるようにするかこれからも研究を進めたい(渡辺氏)」「若手の技術力をどう担保していくかを真剣に考える時期に来ている(橋詰氏)」「今後は維持管理に対しての効率化も重要だ。建設中からこれを意識した生産性向上を目指すべき(岡本氏)」「プレキャストには様々な形状や構造があり，それぞれ異なる型枠を作っているのが実情。この点からも解決すべき点が多いと思われる(中積氏)」「新しい技術を使ってもらい評価を得るためには，強い意志とコミュニケーション力を持ってプレキャストの普及に努めたい(河野氏)」などの意見が出され，コーディネーターの本間氏からは「プレキャスト・現場打ちの長所をそれぞれ伸ばしていくこと，また技術継承の重要性を説きつつ，今後仕事のやり方が変わっていく中で建設業がより魅力的で，やりがいのある職種になっていけるよう関係各所と協力して進めていきたい」と結んだ。

午後からはパネル展示に出展した11社によるプレゼンテーションがあり，セメント関連では太平洋セメント㈱とデンカ㈱の担当者がそれぞれ技術紹介を行い，会場奥の各社展示スペースでは参加者への個別説明が積極的になされた。

開会挨拶の長瀧氏

特別講演の春日氏

夕刻からは特別講演「日本のプレストレストコンクリート技術が持続可能であるためになすべきこと」と題し，春日昭夫氏(三井住友建設㈱副社長)から，80年にわたるわが国PC技術を，黎明期から海外技術に追いつくまでの技術の変遷，日本の課題として世界へ向けての積極的な情報発信やビルディングコード整備の必要性などを説き，今後海外勢と渡りあうための展望として，日本独自の技術を磨くことで差別化をめざし，得意とする急速施工技術やICTを用いた超省力化や超高耐久化といった技術的トレンドを積極的にアピールし，これらを担う技術・組織・人材をもつべきと訴えた。

交流会の最後には，主催者を代表して篠田佳男氏から「本日は生産性向上というホットな話題でパネルディスカッションを行うなど，様々な意見交換ができたのではと思われる。今後の仕事に存分に活かしていただきたい。」との挨拶により閉会した。

続いて隣接するホワイエで好例の意見交換会が開かれ，丸山久一氏(長岡技術科学大学名誉教授)による乾杯の音頭で開宴。各地から取り寄せた日本酒を片手に，各所で技術談義が盛り上がり，交流を深めるなか幕を閉じた。

パネルディスカッションの様子